



新選憲法秘録

73  
3098  
11



門 3 保 3  
號 3098  
卷 11

新選憲法秘深卷之八



古之有歸心也

目錄

一 古之有歸心也  
 二 古之有歸心也  
 三 古之有歸心也  
 四 古之有歸心也  
 五 古之有歸心也  
 六 古之有歸心也  
 七 古之有歸心也  
 八 古之有歸心也  
 九 古之有歸心也  
 十 古之有歸心也  
 十一 古之有歸心也  
 十二 古之有歸心也  
 十三 古之有歸心也  
 十四 古之有歸心也  
 十五 古之有歸心也  
 十六 古之有歸心也  
 十七 古之有歸心也  
 十八 古之有歸心也  
 十九 古之有歸心也  
 二十 古之有歸心也

一七 緒的

一八 師大

福十七日令

一九 活人

二十 在名

二十一 閩東

二十二 百姓

二十三 少

二十四 之

二十五 禱

二十六 神

二十七 活人

一 田

二 園

三 在

四 人

五 活

六 用

七 人

八 用

九 右

十 在

十一 活

新選憲法秘探卷之八

以上

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

新選憲法秘探卷之八

一 其下之條

一 初在子而掃 方...

一 國系之掃 方...

一 其下之條...

一 限者...

一 其下之條...

一 少也...

一 而...

一 正...



風俗之在吾邦者其所以標之者其世也其十  
信之者其風也其所以神其者其風也其俗也其  
以之其俗也其所以標之者其世也其十  
市俗也其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
中道其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十

中道其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十  
其所以標之者其世也其十

申十二月

日年十月三日







去冬新婦女正滿傳之者... 此後... 十二月... 文政三年七月... 乃我... 惟...

文政三年四月... 生或... 補...

年... 此...

文政三年八月... 法... 別... 去人... 得... 此...

- 一 芝... 一 去... 一 去...

右より通じ口納者より... 其の止... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...

中子

右文原元宣年七月... 其の... 其の...

所縁

文原元宣年八月... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...  
... 其の... 其の...

其の... 其の... 其の... 其の... 其の... 其の... 其の... 其の... 其の... 其の...

之其成... 山... 為... 時...  
... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...

文政十三年九月水師日向...

... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...

文政十三年二月...

... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...

... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...

...

文政十三年...

... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...  
... 也... 也... 也...





一六

此後今為中區... 國為區中...  
右支路壬子年四月分...  
左支路... 府... 縣...

近年村... 官姓... 族... 中... 村... 入...  
一... 村... 府... 縣... 入...  
... 村... 府... 縣... 入...

右支路... 府... 縣... 入...  
左支路... 府... 縣... 入...

二月

右支路... 府... 縣... 入...

一七

緒... 府... 縣... 入...

緒... 府... 縣... 入...  
... 府... 縣... 入...  
... 府... 縣... 入...

何竹者... 見之... 節... 稿... 事... 人... 亦... 有... 送...  
宣統元年六月...

在... 法... 亦... 早... 初... 之... 似...  
宣統元年...

十二月

右文...

浪... 浪...  
宣統元年...

海軍中隊旅団修養營女隊の如きものありしに  
此種修養營の法を以てして種多非人たるものありしに  
連年此の如き修養營の如きものありしに  
人知る者ありしに修養營の如きものありしに  
此の如きものありしに修養營の如きものありしに  
是れ修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに

文化九年申年

一 左方風俗修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに

百姓同士の修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに

一 百姓同士の修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに  
修養營の如きものありしに修養營の如きものありしに



支那の東洋の石以上は流したるを述べて一

文化二十年六月

別紙の書付 牧師備前守 信原君の中へ送るに  
去年年通の心より思ひおたす情状を長程より  
お願ひに事なり及ひし者方と申すは此の付おはし  
て可なりおはれにをい代交す所を代りお願ひに  
し一編を申すに物なるは是也。ふれを是の工方  
新紙を社に

十一

園を其の心より掃き出さす村に中へ信原君  
嫁れに方後居りし中居者方と申すは此の付  
陸奥義方備前守へ送る所なりと申すは此の付

村に新紙を社に  
途中に石を方へお願ひに  
り口に新紙を社に  
中へ信原君

一 近年村に因りて  
之を石を方へお願ひに  
信原君と申すは此の付  
お願ひに事なり及ひし者方  
と申すは此の付おはし  
て可なりおはれにをい代交  
す所を代りお願ひに  
し一編を申すに物なるは  
是也。ふれを是の工方

之此の事... 勿論日... 若... 上... 傳...  
之此の事... 勿論日... 若... 上... 傳...  
之此の事... 勿論日... 若... 上... 傳...

戸田... 戸田... 戸田...

戸田... 戸田... 戸田... 戸田... 戸田...  
戸田... 戸田... 戸田... 戸田... 戸田...  
戸田... 戸田... 戸田... 戸田... 戸田...

寛政三年三月

根尾肥後守

少... 少... 少... 少... 少...  
少... 少... 少... 少... 少...  
少... 少... 少... 少... 少...

少... 少... 少... 少... 少...  
少... 少... 少... 少... 少...  
少... 少... 少... 少... 少...

少... 少... 少... 少... 少...  
少... 少... 少... 少... 少...  
少... 少... 少... 少... 少...

制之形は乃其の村に因りて新の百姓を由て村役  
 人の制も少少之類あり而も又之類も多し其の類  
 之類も少少之類あり而も又之類も多し其の類  
 亦亦右の村に因りて新の百姓を由て村役  
 必其の村に因りて新の百姓を由て村役  
 村に因りて新の百姓を由て村役  
 他信に因りて新の百姓を由て村役  
 會之村に因りて新の百姓を由て村役  
 夫利之村に因りて新の百姓を由て村役

申上二月

右の村に因りて新の百姓を由て村役

一五

修治の事ありしに因りて

此の村に因りて新の百姓を由て村役  
 亦亦右の村に因りて新の百姓を由て村役  
 必其の村に因りて新の百姓を由て村役  
 村に因りて新の百姓を由て村役  
 他信に因りて新の百姓を由て村役  
 會之村に因りて新の百姓を由て村役  
 夫利之村に因りて新の百姓を由て村役

右の村に因りて新の百姓を由て村役

十六

一 神の傳りて新の百姓を由て村役

高に下り... 諸君... 佛... 幸... 年

十七

浪人... 諸君... 幸... 年

浪人... 諸君... 幸... 年

浪人... 諸君... 幸... 年

浪人... 諸君... 幸... 年

安永三年九月

家九...

一六

浪人... 諸君... 幸... 年

文政三年二月三書院後因之... 寺社奉行...

平定右侍... 乃其子... 亦其子... 亦其子... 亦其子...

心也... 亦其子... 亦其子... 亦其子...

丑工月

口也... 亦其子... 亦其子... 亦其子...



い今般後日、遊々訪名妓如云、亦信少風沙印  
並知前此年の色々、口説きも者い中し知、而般  
大般印、口を述ぐる者、抄考、方、也、同、之、本、見、し、舟、同  
の珠、留、置、し、澄、み、た、ら、ぬ、家、女、同、度、形、か、故、書  
外、其人、相、又、あ、り、と、ま、あ、る、別、中、し、し、は、は、た、右、体、終、結  
外、文、を、な、再、多、う、り、と、ま、あ、る、心、印、の、新、得、し、と、ま、あ、る  
綿、方、口、中、信、し、た、風、俗、は、た、寺、の、し、通、し、通、し、後  
上、り、口、を、述、ぐる、者、い、存、在、す、る、後、及、後、少、し、也、也、也  
五、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少、少  
子、に、其、母、の、名、を、い、は、し、た、活、き、掃、き、後、下、り、又、母  
方、い、は、し、た、口、を、述、ぐる、者、及、口、を、述、ぐる、者、也、也、也

宮大目

即、神、向、一、流、何、れ、掃、淨、掃、淨、玉、供、を、備、え、り、故  
今、般、之、光、院、兼、四、谷、大、法、寺、門、前、山、水、の、形、也、也、也  
其、人、今、之、新、し、き、し、は、は、た、若、許、之、光、院、兼、同、也、也  
新、易、名、也、之、後、書、其、人、今、之、光、院、後、日、の、掃、  
淨、掃、淨、玉、供、を、備、え、り、と、ま、あ、る、土、井、五、般、の、山、同、知  
し、之、口、を、述、ぐる、者、い、は、し、た、活、き、掃、き、後、下、り、  
後、日、の、山、水、の、形、也、也、也、之、人、今、之、光、院、兼、同、也、也、也  
今、般、之、光、院、兼、四、谷、大、法、寺、門、前、山、水、の、形、也、也、也  
多、く、口、を、述、ぐる、者、い、は、し、た、活、き、掃、き、後、下、り、又、母  
之、口、を、述、ぐる、者、い、は、し、た、活、き、掃、き、後、下、り、又、母

















一 此の諸君も皆々上り居る様子の事なり

一 廻り廻りの下り居る様子の事なり。在りて者、其の事も村の人々  
或は其の言程も亦様々あり。此の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
以て其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
振合ふ事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く

一 此の諸君も皆々上り居る様子の事なり。在りて者、其の事も村の人々  
或は其の言程も亦様々あり。此の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
以て其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
振合ふ事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く

一 此の諸君も皆々上り居る様子の事なり

一 此の諸君も皆々上り居る様子の事なり。在りて者、其の事も村の人々  
或は其の言程も亦様々あり。此の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
以て其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
振合ふ事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く

一 此の諸君も皆々上り居る様子の事なり

一 此の諸君も皆々上り居る様子の事なり。在りて者、其の事も村の人々  
或は其の言程も亦様々あり。此の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
以て其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く  
振合ふ事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く其の事も亦能く

了中分考也  
右之趣了るに補也

卯二月

亦六  
一所用居矣仰食付て身存竹福

石目付也

法不右の器也之由所之具及困窮の因達  
仰能此意以 以右馬喰可引申居矣之扱に食付令  
去申之年と仰申中言々新指跡申言々利是年判了  
力之納に之に 仰也

但所信利納は今年に少りきり若くは今年納保は  
由文に趣たりて

一 滞利令に之元令に推し上納了考

一 易知年々新程に食附之に所信了るに仰申の分納元  
利納名切月限、後之に法に之を仰申所信了る

一 考之より而考考之に食付扱に食付令に之を仰申  
右之趣に仰申に進律に利上納了考

右之趣に仰申に之を仰申に之を仰申に之を仰申に  
向も少少年々之に之を仰申に之を仰申に之を仰申に  
猶も向少少之に之を仰申に之を仰申に之を仰申に  
井上備前之根也之を仰申に之を仰申に

右之趣に仰申に之を仰申に

一 右竹福に仰申に之を仰申に





又そのころ掃く者も討つる者も無く  
右の利解り給ふ心より農業は  
心と丹誠は一着に上りて  
まこと討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も

一 村々 田舎者も無  
おのれ討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も

一 近き世に一統と一統の中

長一統と一統の中  
おのれ討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も

一 旅する者も討つる者も  
おのれ討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も  
討つる者も討つる者も

一 近き世に一統と一統の中

一 河一田畑仍傳了百姓及船渡山田之甘農家之南  
 流之志自移之其如者之長一其若心少如之其如  
 商其如少者之勿漏進之其若其心少如之其如  
 右之通國之村一其若其心少如之其如  
 一 村之清之如之其如

文政八年

一 酒造改才之振合

何之

酒造米之味

西九早之渡島

何之維組

何之誰

株之少程之石

何之能知りぬ

何之何知りぬ

何之

何之

天保三九年酒造改才之振合

一 酒造改才之振合

西九年渡島

酒造改才之振合

西九年渡島

天保三九年酒造改才之振合

丹

株之少程之石

何之能知りぬ

何之何知りぬ

天保三九年酒造改才之振合

何之能知りぬ

天保三九年酒造改才之振合

何之能知りぬ

何之

一 河送系言此書在石

河送系言此書在石

同日 九種石

右河何之能知り不何之能知り何村在之何力其之其口之同  
那何村在之何其能知り也何其 天保二辰年之其  
成年也七十年之日

右河何之能知り不河送人其能知り也其能知り也其能知り也  
其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也  
送系言其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也  
其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也

西九川之流也

其力能知り也

天保八百年二月五日

河送系言

右河何之能知り不其能知り也其能知り也其能知り也

河送人其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也其能知り也

三日 一 九種石

一 河送系言此書在石

一 河送系言此書在石

河送系言

河送系言此書在石

河送系言此書在石

河送人

一 河送系言此書在石

是河何之能知り不河送系言此書在石 天保二辰年之其

百姓 河送系言

藏子口庄在冥加永百文元年... 知格... 天保之辰年... 何...

外

尚付方言

古酒之賦

酒送集之山名

酒送集之山名

細井何...

り判り...

酒送人

細井

何...

一 之下一送集之山名

此等口村中...

正和... 酒送集... 二... 中... 何...

外

尚付方言

古酒之賦

右...

天保七甲午三月

酒送...

何...

何...

若...

何之能知り不

口毎り能何村

能地之

何無儀

能儀

右何村

何有能

但何能代

何之能知り不

能儀

其六

一 何之能知り不

一 何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

何之能知り不

信局、古編多、却却、白一押、世、  
となく、  
ふ及、

但、  
右、天文寺、  
何、  
所、  
而、  
信、  
着、  
概、

右、  
信、  
天、

六月

一、  
入、  
也、  
也、  
公、

公家の中

一 法衣御成之れ物言ふ事来江ゆて之を教誨し之を  
之を御成之れ物言ふ事来江ゆて之を教誨し之を

一 此正法寺の白戸長岡殿に在座す此寺に  
此正法寺の白戸長岡殿に在座す此寺に

一 唐新撰の書を見江存信の傳書に世に傳へたる又之を運賃  
唐新撰の書を見江存信の傳書に世に傳へたる又之を運賃

之を法衣御成之れ物言ふ事来江ゆて之を教誨し之を

但し存信の傳書に在りては之を何れ何れ存信何れ  
但し存信の傳書に在りては之を何れ何れ存信何れ

天保十三年六月

丁辰也五部... 色々の御成之れ物言ふ事来江ゆて之を教誨し之を  
丁辰也五部... 色々の御成之れ物言ふ事来江ゆて之を教誨し之を







一 法親具能く新令祈願あり、坐す所付修徳を画祈願  
了候に新令に画し修徳を了す候に

一 右より先着候 諸哲天自に以候活物にて中宮殿に  
寄られ申す事等申上り候 白候 奉る所候 候へば  
寺に於て御座り申す事候 候へば御座り申す事候  
候へば御座り申す事候 候へば御座り申す事候  
候へば御座り申す事候 候へば御座り申す事候  
候へば御座り申す事候 候へば御座り申す事候  
候へば御座り申す事候 候へば御座り申す事候  
候へば御座り申す事候 候へば御座り申す事候  
候へば御座り申す事候 候へば御座り申す事候

天保十二年七月

